

「歴史的な見方・考え方」を働かせる工夫

「歴史的な見方・考え方」*を働かせる工夫ができるよう、資料や本文を工夫しています。教科書の巻頭8では、「歴史的な見方・考え方」とは何か、具体的な事例を示しながら端的にわかりやすく説明しています。

* 「歴史的な見方・考え方」とは「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」の4つを指します。

巻頭8の解説

歴史的な見方・考え方

中学校社会科の歴史的分野では、日本や、日本と関わる世界について学び、日本の各時代の特色を探りながら学習を進めていきます。歴史を学ぶ際には、歴史的な見方・考え方を働かせると、歴史の意味をより深く理解することができます。

「歴史」の学習は、人や事件の名前を覚えていくだけではないんだね。



小学校では、社会的な見方・考え方を働かせて学習を進めたけれど、中学校でも見方・考え方が大事なんだね。



→歴史的な見方・考え方を働かせて「ペリーの来航」を見てみよう

年	主な出来事
17世紀後半～	外国の船がたびたび日本の周りに来る
1853	アメリカのペリーが浦賀に来る
1854	ペリーが横浜に来る
同年	日米和親条約を結ぶ
1858	日米修好通商条約を結ぶ
1858以降	日本の物価が上がり、人々の不満が高まる。幕府を倒す運動が激しくなる
1867	幕府が大政奉還を行う → 明治時代へ

【ウィリアム・ハイネ原画「ペリー提督・横浜上陸の図」横浜開港資料館蔵】



↑ 江戸時代末期の主な出来事

→ 2 ペリーの横浜来航を描いた絵画

時期や年代

この出来事は、いつ、どこで、誰が起こしたのかな？

出来事が「いつ、どこで、誰が起こしたのか」ととらえることが必要となります。時系列でとらえることで、初めて出来事の意味を考えられるようになります。

推移

この出来事は、その後、どのように移り変わったのかな？

出来事がどのように展開していったのか、また、出来事によって何が変化し、何が変化しなかったかに注目することで、出来事の意味を考えられることができます。

比較

ほかの出来事と比べて、共通点や違う点はどこかな？

出来事と、ほかの出来事を比較すると、共通点や違う点が見つかります。その理由を考えることで、それぞれの出来事の特徴を見出すことができます。

相互の関連

この出来事はなぜ起こり、どんな結果になったのかな？

出来事の原因・背景や結果・影響に注目することで、それぞれの出来事がどのように関連しているかが分かり、歴史の大きな流れをとらえることができます。



ひとつの出来事に、さまざまな歴史的な見方・考え方を働かせることが大事なんだね。



歴史的な見方・考え方は、歴史上の人物や物事について考えるときなど、いろいろなことに活用できそうだね。

歴史的な見方・考え方を働かせていけば、歴史への「なぜ」がたくさん見つかります。そうした謎を解き明かしながら歴史を学び、各時代の特色を考察しましょう。

巻頭8

→巻頭8

ポイント

見方・考え方アイコン

見方・考え方

NEW

「学習を振り返ろう」ページに、単元の学習を振り返る際に働かせる「歴史的な見方・考え方」を、また「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」「アクティブ歴史」ページには、課題に取り組む中で働かせる「歴史的な見方・考え方」をアイコンで示しています。(全28か所)

本文の工夫

時期や年代

この出来事は、いつ、どこで、誰が起こしたのかな？

出来事が「いつ、どこで、誰が起こしたのか」ととらえることが必要となります。時系列でとらえることで、初めて出来事の意味を考えられるようになります。

推移

この出来事は、その後、どのように移り変わったのかな？

出来事がどのように展開していったのか、また、出来事によって何が変化し、何が変化しなかったかに注目することで、出来事の意味を考えられることができます。

新田開発と農業技術の発達

江戸幕府の支配の下、戦乱のない時代が訪れると、17～18世紀にかけて人口は急速に増加し、18世紀初めには、17世紀初めの約2倍にあたる3000万に推定されています。幕府や大名は、人口増加に対応するため、用水路をつくったり、干潟や沼地を干拓したりするなど新田開発に力を注いで米の生産量を増やすことに努めました。

一方、農民たちも、土地を深く耕することができる備中鍬や、楽に脱穀ができる千歯こきなどの農具を使用し、干鰯や油かすなどの、より栄養価の高い肥料も使うようになり、生産の効率が大きく上がりました。この時期に、農業技術を記した農書が木版印刷によって全国に広まったことも、こうした農業の新しい動きを後押ししました。この結果、耕地面積とともに米の生産量も飛躍的に増え、人々の生活はしだいに安定していきました。

↑ p.138

資料の工夫

比較

ほかの出来事と比べて、共通点や違う点はどこかな？

出来事と、ほかの出来事を比較すると、共通点や違う点が見つかります。その理由を考えることで、それぞれの出来事の特徴を見出すことができます。

相互の関連

この出来事はなぜ起こり、どんな結果になったのかな？

出来事の原因・背景や結果・影響に注目することで、それぞれの出来事がどのように関連しているかが分かり、歴史の大きな流れをとらえることができます。

1 タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「②安土桃山時代」「⑧江戸時代」を見比べて、大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も添えて説明しよう。タイムトラベルを見比べる際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。



例えば「統一政権」をキーワードにすると、こんなことに気がつくね。

比較 農具や農作物の違いに着目しよう

「②安土桃山時代」と「⑧江戸時代」の絵を見比べて、百姓たちが使っている農具や、育てている農作物はどのような違いがあるだろうか。

相互の関連 武器をもつ人々や変化した背景に着目しよう

p.90～91の「⑥室町時代」や、「②安土桃山時代」、「⑧江戸時代」で、武器をもっている人々や変化したことは、統一政権の誕生とどのように関連しているだろうか。

↑ p.159

その他の特色

「歴史的な見方・考え方」を働かせる工夫

「歴史的な見方・考え方」を働かせる工夫

「歴史的な見方・考え方」を働かせる考察できる「地図帳活用」アイコンや「技能をみかく」を設置しています。

ポイント

技能をみかく

「歴史的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的・基本的な「技能」を習得できるよう、「技能をみかく」を全14テーマ設置しています。

技能をみかく 4 年表のつくり方・地図のつくり方

年表のつくり方

- ①何の年表をつくるのか、題材とタイトルを決める。
- ②どの年代からどの年代までを年表にするのか、時期の長さを決める。
- ③年代を書き入れる場所を決める。
- ④年代の場所に年代を書き入れ、出来事・出来事の原因、その年に起こった出来事を書き入れる。

地図のつくり方

- ①示したい場所やルート、領域に合わせて、地図の範囲を決める。
- ②必要な都市や場所を、地図上に書き入れる。
- ③道路などがある場合は、ルートを地図上に書き入れる。
- ④領域や国の範囲などを囲んで色を塗る。

調べてみよう①

「調査で分かったこと・気になったこと」をもとに、年表の()に出来事を入れよう。

年代	四ツ谷用水に関する出来事	日本の動き
1600年		
1611年	伊達政宗が仙台城下町の建設を始める	徳川家康が関ヶ原の戦いで勝利する
1613年	仙台城下に町の人々が暮らす。人口が増える	江戸幕府ができる
1614年	大いかなり完成する	
1615年		
1616年		
1617年	4代将軍徳川家康が、四ツ谷用水が完成する	参勤交代の制度が始まる

調べてみよう②

地図のなかに、四ツ谷用水の本流の経路を赤色で書き入れよう。

調査で分かったこと・気になったこと

- 四ツ谷用水は、江戸時代初期に、仙台藩の初代藩主・伊達政宗が命じてつくられ、1617年に工事が始まったといわれている。
- 仙台藩の城下町は川よりも高い位置に土地があり、城下町へ水を運ぶために、町から離れた標高の高い土地で水を貯り入れ、城下町へ水を運ぶ四ツ谷用水が完成した。
- 明治以降、使われなくなったのはなぜか？
- **解説** 四ツ谷用水は水道の技術がなかったことにより町へ水を供給できなかったため、水道ができたことで、下水道の役割へと変化して今に至っている。

年表のつくり方・地図のつくり方

学習の内容を年表や地図でまとめる技能を身に付けられるようにしています。各時代の学習に入る前の第1章第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」に設置しています。

←p.11

技能をみかく 11

資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する

当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料をもとに、当時の政治や社会の特色を踏まえて、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。

←p.157

「技能をみかく」掲載ページ一覧(全14テーマ)

ページ	タイトル
p.7	年代や時代を結びつける
p.8	情報の集め方
p.10	野外・聞き取り調査のしかた
p.11	年表のつくり方・地図のつくり方
p.13	レポートのまとめ方、発表のしかた
p.35	複数の資料をもとに類推する NEW
p.39	系図の見方
p.40	しくみ図の見方
p.56	絵巻物の見方
p.77	理由を考えながら資料を読み取る NEW
p.157	資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する
p.205	当時の立場になって選択し、判断する
p.249	歴史的な背景を踏まえて、問題の解決を考える
p.267	情報の意図を読み解く

資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する

歴史的な事象を考察する際に、現在の視点だけでなく、当時の人々の視点に立って考える技能が身に付けられるようにしています。当時の政治や特色を踏まえて自らの考えを表現する、第4章「アクティブ歴史 赤穂事件を考察する」(p.156-157)に設置しています。

ポイント

地図帳活用 地図帳活用 NEW

日々の学習で地図帳をより活用できるよう、「地図帳活用」アイコンを全28か所設置し、活用を促しています。地理的背景を踏まえて歴史学習をより深められるようにしています。

中学生の歴史p.69「源平の争乱」を例に

教科書p.69で学習する「源平の争乱」において、おもな合戦地となった場所や「源義経の進路」を、**地図帳を活用することで地名や地形とともに確認できます。**

↑p.69

↑6 源平の争乱 地図帳活用

→地図帳p.93-94

「地図帳活用」掲載ページ一覧(全28か所)

ページ	タイトル	ページ	タイトル
p.18	③世界各地の文明と栽培植物の伝わった方向	p.140	③江戸時代の交通
p.25	⑤宗教の誕生と広まり	p.145	④「おくのほそ道」で芭蕉が旅した道とよんだ句
p.31	⑦日本各地に広がる縄文・弥生時代の交易	p.170	②アメリカ合衆国の領土の拡大
p.33	⑦5世紀の東アジア	p.177	④北方の調査
p.39	⑥6世紀末～7世紀初めの東アジア	p.187	③廃藩置県
p.41	④7世紀の東アジア	p.195	④明治初期の日本の国境と外交
p.69	⑥源平の争乱	p.197	⑤北海道の地名の由来
p.87	⑤14～15世紀の東アジア	p.215	⑥八幡製鉄所の位置
p.94	②主な一揆	p.229	⑥第一次世界大戦中のヨーロッパ
p.96	③応仁の乱による京都の被害	p.260	④満蒙開拓団の分布と都道府県別満州移民
p.100	⑫文化が栄えた主な都市	p.264	①アジアと太平洋での戦争
p.129	④四つの窓口と朝鮮通信使のたどった道	p.282	①第二次世界大戦後の世界
p.138	④利根川の流路の変遷	p.285	④日本の戦後の国境
p.139	⑧各地の主な特産物	p.299	⑤主な紛争・テロと地域統合